

第2回日本脳神経外科認知症学会学術総会

モーニングセミナー1

アルツハイマー病の発症機構と 陳皮の臨床応用

～ADの発症・進展にミエリン損傷が関与する可能性～

日時

2018年6月24日(日) 9:10-10:00

会場

第3会場

(タワーホール船堀 2階 イベントホール福寿)

東京都江戸川区船堀4-1-1

座長

矢崎 俊二 先生

医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院 神経内科 部長

演者

工藤 千秋 先生

医療法人社団 くどうちあき脳神経外科クリニック 院長

共催：第2回日本脳神経外科認知症学会学術総会 / クラシエ 薬品株式会社

アルツハイマー病の発症機構と 陳皮の臨床応用

～ADの発症・進展にミエリン損傷が関与する可能性～

工藤 千秋 先生 医療法人社団 くどうちあき脳神経外科クリニック 院長

アルツハイマー病(AD)の発症機序として知られる可溶性A β オリゴマーの産生と凝集塊の形成には、ミエリン塩基性タンパク(MBP)が中心的な役割を担っている。神経細胞の老化による脱髄に対し生薬“陳皮”およびその成分は、リン酸化されたMBPの発現レベルを上昇させ、ミエリンの再生を促進する。併せて構成生薬に陳皮を含む医療用漢方エキス製剤である人參養栄湯のAD患者に対する臨床的有用性について紹介する。

工藤 千秋(くどう ちあき)先生 ご略歴

1985年 島根医科大学(島根大学医学部) 卒業
1985年 東邦大学医学部大学院
同 年 鹿児島市立病院脳神経外科 脳疾患救命救急センター 国内留学
1993年 英国バーミンガム大学脳神経外科 留学
1995年 (労福事業団) 東京労災病院 脳神経外科 副部長
2001年 くどうちあき脳神経外科クリニック(大田区大森北) 開設

